

令和8年度

専攻科

シラバス

生産から流通・販売まで
アグリビジネスの実際を学ぶ

専門学校山梨県立農林大学校
〒408-0021

山梨県北杜市長坂町長坂上条3251

TEL 0551-32-2269

FAX 0551-32-2034

令和8年度専攻科シラバス 目次

専攻科1年

教 養	数学	1
生産技術	果樹栽培概論	2
	醸造用ブドウ栽培論(1)	3
	新品種特性	4
	地域先進技術(1)	5
	植物栄養生理	6
	植物増殖(1)	7
	植物生長調節	8
	病害虫防除(1)	9
	土壌肥料(1)	10
	環境保全型農業(1)	11
	農業施策	12
	農業法規(1)	13
	先端技術実習(1)	14
経営管理	農産物流通販売	15
	マーケティング	16
	法人経営論	17
アグリビジネスの実際	アグリビジネス論Ⅰ	18
	農業法人派遣研修	19
卒業研究	起業理念	20

専攻科2年

教 養	社会学	21
生産技術	果樹栽培各論Ⅰ	22
	果樹栽培各論Ⅱ	23
	果樹栽培各論Ⅲ	24
	醸造用ブドウ栽培論(2)	25
	地域先進技術(2)	26
	植物増殖(2)	27
	病害虫防除(2)	28
	土壌肥料(2)	29
	環境保全型農業(2)	30
	農業法規(2)	31
	先端技術実習(2)	32
経営管理	販売促進	33
	農業経営分析	34
アグリビジネスの実際	アグリビジネス論Ⅱ	35
	異業種派遣研修	36
卒業研究	ビジネスプラン	37

科目名	数学 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	佐野 祐子 米山 俊広		
ねらい	資格取得や就職に必要な基礎を学ぶ。				
到達目標	就職試験に必要なSPI問題と農協営農指導員資格試験対策(経営)について理解する。				

回数	授業計画
1	営農指導員資格試験(経営)演習と解説①
2	営農指導員資格試験(経営)演習と解説②
3	営農指導員資格試験(経営)演習と解説③
4	営農指導員資格試験(経営)演習と解説④
5	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑤
6	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑥
7	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑦
8	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑧
9	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑨
10	営農指導員資格試験(経営)演習と解説⑩
11	SPI演習①
12	SPI演習②
13	SPI演習③
14	SPI演習④
15	SPI演習⑤
16	SPI演習⑥
17	SPI演習⑦
18	SPI演習⑧
19	SPI演習⑨
20	SPI演習⑩

評価方法・基準	出席、態度、レポート等により評価する。
---------	---------------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	果樹栽培概論 講義	単位数	3	時間	45
対象学生	専攻科 1年	担当者	若林 喜久男 [元農業系高校校長]		
ねらい	落葉果樹栽培の専門的な技術を学ぶ。				
到達目標	本県で生産されているブドウ、モモを中心とした落葉果樹栽培に関する専門知識な知識を理解する。				

回数	授業計画
1	果樹の品種：育成過程、主要な品種の特長
2	山梨の果樹生産：ブドウ・モモ生産の特長
3	ブドウ・モモ生産（1） 苗木の植付け、生育
4	ブドウ・モモ生産（2） 結実、収穫・出荷、貯蔵
5	モモ生産（3） 秋季せん定の時期・方法手順、効果、日焼け対策
6	モモ生産（4） 秋季せん定の効果、日焼け対策
7	ブドウ栽培（1） 品種、黒系、赤系、白系品種の特長
8	ブドウ栽培（2） 品種の違いと栽培方法
9	果樹栽培適地（1） 果樹産地の育成
10	果樹栽培適地（2） 果樹産地の形成のコンセプト
11	果樹品種の作出（1） 新品種・主要品種の特長と栽培要点
12	果樹品種の作出（2） DNA品種判別法、育種へのDNAマーカーの利用
13	果樹の育苗（1） 苗木づくり、芽つぎの方法と活着のメカニズム
14	果樹の育苗（2） 台木に必要な特性、接ぎ木親和性
15	果樹の育苗（3） 台木の品種、特長、育成法
16	ブドウの整枝せん定（1） ブドウの枝の管理の基礎
17	ブドウの整枝せん定（2） 枝の特長、枝の育成
18	ブドウの整枝せん定（3） X型せん定、短梢せん定の原則
19	果樹の病害虫防除（1） モモせん孔細菌病
20	果樹の病害虫防除（2） 秋の病害虫防除
21	果樹園土壌の特長（1） 土壌分析と施肥
22	果樹園土壌の特長（2） 土壌構造と堆肥の効果、有機質肥料の種類と作用
23	果樹園土壌の特長（3） 施肥の効果、土壌の化学性について、果樹根群制限栽培
24	果樹園土壌の特長（4） 果樹の適正PH、土壌PHと繁茂する雑草、かん水と土づくり
25	モモの整枝せん定（1）
26	モモの整枝せん定（2）
27	今年の果樹病害虫の問題点と対策（発生状況）、近年問題となった病害虫
28	果樹園の有害鳥獣駆除の方法
29	果樹園の農業気象と病害虫の発生 果樹の遺伝子組み換えについて
30	試験

評価方法・基準	試験、レポート・発表等により評価する
---------	--------------------

テキスト・参考書	果樹栽培の基礎（農文協） 葡萄の郷から（山梨県果樹園芸会）
----------	----------------------------------

科目名	醸造用ブドウ栽培論 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	小牧 康伸 [シニアソムリエ、ワイナリー経営者] 古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	醸造用ブドウ栽培の基礎を学ぶ。				
到達目標	醸造用ブドウの品種特性と栽培技術について理解する。				

回数	授業計画
1	醸造用ブドウの基本的栽培(小淵沢 小牧農園)
2	醸造用ブドウの定植(小淵沢 小牧農園)
3	醸造用ブドウの収穫生育(小淵沢 小牧農園)
4	現地研修②(山梨大学ワイン科学研究センター 甲府市) ワインの醸造・品質に関する研究
5	現地研修①(韮崎市マルスワイン工場) 県内ワイナリーの醸造現場の見学
6	世界のブドウ産地の気候条件と栽培種
7	ワイナリー見学(醸造用ブドウ品種の動向と品質管理)
8	ワイナリー見学レポート発表および相互討議
9	醸造用ブドウのせん定(小牧農園)
10	醸造ブドウの栽培土壌 世界のブドウ品種の動向

評価方法・基準	レポート等により評価する
---------	--------------

テキスト・参考書	プリント資料
----------	--------

科目名	新品種特性 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 1年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	落葉果樹の育種や品種の特性など、栽培技術の基礎を学ぶ。				
到達目標	消費者と生産者のニーズに合わせた果樹の新品種育成の方法などについて理解する。				

回数	授業計画
1	ブドウ 主要品種の高品質・安定生産に向けた基本技術 (整枝せん定・生育調整剤の利用・適性樹相の考え方)
2	モモ 原産地と栽培品種の来歴 品種特性について
3	スモモ 栽培の現状と主要品種
4	その他果樹 主要品種の高品質・安定生産に向けた基本技術 (整枝せん定・生育調整剤の利用・適性樹相の考え方)
5	品種育成の手順と種苗法
6	細胞生物学 細胞内諸器官の舞商都働き DNA、RNA、倍数体、ゲノム
7	分子生物学的手法を用いた新しい育種法① S遺伝子、PCR法、親子鑑定、茎頂培養法、ウイルスフリー化
8	分子生物学的手法を用いた新しい育種法② 三倍体育種、遺伝子組み換え技術、ゲノム編集
9	試験
10	試験問題の解説

評価方法・基準	試験により評価する。
---------	------------

テキスト・参考書	プリント資料
----------	--------

科目名	地域先進技術 事例研究	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	佐野 祐子 耕地課職員		
ねらい	県内各地域における産地化の取り組み等に関する知識を習得する。				
到達目標	各種の事業を導入した先進技術の導入事例や産地化の事例から、その手法について理解する。				

回数	授業計画
1	農村地域の総合開発事業①（現地調査と討議）
2	農村地域の総合開発事業②（現地調査と討議）
3	農村地域の総合開発事業③（現地調査と討議）
4	農村地域の総合開発事業④（現地調査と討議）
5	畑地かんがい事業等用水の確保の取り組み①（現地調査と討議）
6	畑地かんがい事業等用水の確保の取り組み②（現地調査と討議）
7	畑地かんがい事業等用水の確保の取り組み③（現地調査と討議）
8	畑地かんがい事業等用水の確保の取り組み④（現地調査と討議）
9	農業集落排水事業①（現地調査と討議）
10	農業集落排水事業②（現地調査と討議）
11	農業集落排水事業③（現地調査と討議）
12	農業集落排水事業④（現地調査と討議）
13	果樹園の基盤整備の事例①（現地調査と討議）
14	果樹園の基盤整備の事例②（現地調査と討議）
15	果樹園の基盤整備の事例③（現地調査と討議）
16	果樹園の基盤整備の事例④（現地調査と討議）
17	環境保全に配慮した新しい病害虫防除法①（現地調査と討議）
18	環境保全に配慮した新しい病害虫防除法②（現地調査と討議）
19	環境保全に配慮した新しい病害虫防除法③（現地調査と討議）
20	環境保全に配慮した新しい病害虫防除法④（現地調査と討議）

評価方法・基準	レポートにより評価する。
---------	--------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	植物栄養生理 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病害虫)]		
ねらい	果樹生産に必要な果樹の植物生理や植物栄養、生育障害や栄養障害等について習得する。				
到達目標	果樹の高品質安定生産のために必要な基礎知識を理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業目標・計画、植物栄養生理の定義、植物栄養生理を学ぶ意義 ・ ブドウの生育特性と生理 ・ 演習
2	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウの発育生理と栽培環境（休眠期、発芽及び新梢生長期、開花結実期） ・ 演習
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウの発育生理と栽培環境（果実成熟期） ・ ブドウの生育と植物ホルモン（種類、発見の歴史、生理作用） ・ 演習
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウの植物生育調節剤（作用と効果、処理方法、使用上の留意点） ・ 演習
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウの生理障害（生育障害、栄養障害） ・ 演習
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ モモの生育特性と生理（生育の特性、年間の生長、各部の形態と生理） ・ 演習
12	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ モモの生理障害 ・ 演習
14	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ スモモの生育特性と生理（生育特性、形態と生理、生理障害） ・ 演習
16	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ オウトウの生育特性と生理（生育特性、形態と生理、植物生育調節剤、生理障害） ・ 演習
18	
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験 ・ 試験の解答、解説
20	

評価方法・基準	試験、演習、授業態度等で評価する。
---------	-------------------

テキスト・参考書	プリント資料、ブドウの郷から、モモの郷から（山梨県果樹園芸会）
----------	---------------------------------

科目名	植物増殖 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	果樹の苗木生産に必要な接ぎ木技術を中心に、種苗生産に関する技術を学ぶ。				
到達目標	果樹の増殖法および高品質果実生産のための苗木の繁殖法について理解する。				

回数	授業計画
1	ブドウのさし木作業 (実習)
2	〃
3	モモの台木準備 (実習)
4	〃
5	ブドウの緑枝接ぎ作業 (実習)
6	〃
7	モモの芽接ぎ作業 (実習)
8	〃
9	果樹繁殖の基礎 (接木、挿し木法)
10	果樹繁殖の基礎 (株分け・取り木繁殖法)
11	果樹繁殖の基礎 (実生繁殖法)
12	ブドウの繁殖 (挿し木、接木育苗法)
13	ブドウの繁殖 (台木特性)
14	モモの繁殖 (台木特性)
15	植物のウイルス病、ブドウのウイルスフリー化とウイルスフリー苗作出・莖長培養
16	モモ、スモモ、オウトウ苗木の繁殖法
17	ナシ、リンゴ苗木の繁殖法
18	ウメ、カキ苗木の繁殖法
19	テスト
20	解答の解説

評価方法・基準	試験、レポート等により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	果樹の接ぎ木・挿し木・取り木 (農文協)
----------	----------------------

科目名	植物生長調節 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	果樹の生長特徴を生理面から学びながら、近年問題となっている地球温暖化問題について文献購読により、科学技術書籍を読み解く能力を養成する。				
到達目標	果樹の生育に影響する雑草や樹体生理の知識を習得し、高付加価値のある果実の多収安定生産技術について理解する。				

回数	授業計画
1	地球温暖化の実情と将来予測
2	樹木の知識 1 枝や幹の切り方
3	地球温暖化が世界と日本の農業に及ぼす影響
4	樹木の知識 2 木の植え方
5	地球温暖化が日本の果樹栽培に及ぼす影響
6	樹木の知識 3 木の傾きと年輪
7	山梨県内果樹産地における気象条件の違いと果樹生育への影響
8	樹木の知識 4 ひこばえの出る理由
9	文献購読 1
10	樹木の知識 5 木の移植の仕方
11	文献購読 2
12	樹木の知識 6 水を吸い上げる力
13	文献購読 3
14	樹木の知識 7 樹皮の観察
15	文献購読 4
16	樹木の知識 8 強せん定より間伐を
17	文献購読 5
18	樹木の知識 9 下枝の重要性
19	文献購読 6
20	試験

評価方法・基準	試験、レポート等により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	木を診る木を知る木を味わう(日本緑化センター)、プリント資料
----------	--------------------------------

科目名	病虫害防除 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病虫害)]		
ねらい	果樹病虫害の発生生態と防除対策を習得する。				
到達目標	病虫害の適確な診断と生態に基づく効率的な防除について理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業目標・計画 ・ 病虫害の発生条件、農薬の定義と動向、農薬の必要性、化学合成農薬による防除の問題点、農薬の分類と特性、薬剤抵抗性対策
2	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬の作用機構分類、病虫害と防除、病虫害防除所と発生予察事業
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全と安心、農薬飛散防止対策、農薬適正使用、防除基準と防除暦
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているブドウ病害 ・ ブドウ病害各論
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているブドウ害虫 ・ ブドウ害虫各論
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているモモ病害 ・ モモ病害各論
12	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているモモ害虫 ・ モモ害虫各論
14	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているスモモ病虫害 ・ スモモ病虫害各論
16	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっているオウトウ病虫害 ・ オウトウ病虫害各論
18	
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験 ・ 試験の解答、解説
20	

評価方法・基準	試験、演習問題、授業態度等で評価する。
---------	---------------------

テキスト・参考書	プリント資料、令和8年度版病虫害防除基準・農薬適正使用指針（山梨県植物防疫協会）、果樹の病虫害診断サポートシステム（山梨県果樹試験場）
----------	---

科目名	土壤肥料 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壤・栄養生理)]		
ねらい	生産現場における土づくりや土壤改善に必要な技術を学ぶ。				
到達目標	果樹生産における効果的な土壤管理方法について理解する。				

回数	授業計画
1	作物栄養の基礎知識 必須養分 多量元素 微量元素
2	養分欠乏症 養分過剰症 作物栄養診断方法
3	土壤の基礎知識 土壤の種類 土壤の三相 土壤構造
4	土壤を構成する成分 土性 一次鉱物 粘土鉱物
5	土壤中に含まれる有機物の働き 腐植化過程 補植の働き
6	土壤の化学性 陽イオン交換容量 (CEC) 塩基飽和度 リン酸固定 リン酸吸収係数
7	土壤 pH 土壤の緩衝能 作物によって適する pH の違い
8	水田土壤、畑土壤、果樹園土壤の特徴 施設土壤
9	肥料の基礎知識 肥料の種類 単肥 複合肥料 化成肥料 配合肥料 被覆肥料
10	土壤改良資材 ピートモス バーク堆肥 木炭 ケイ酸資材 ゼオライト パーライト
11	ブドウ園の土壤・施肥の特徴
12	モモ園の土壤・施肥の特徴
13	土壤診断と施肥改善 施肥指導基準
14	環境度全型施肥の必要性 草生栽培の必要性
15	土壤肥料に関する試験研究成果①
16	土壤肥料に関する試験研究成果②
17	土壤肥料に関する試験研究成果③
18	土壤肥料に関する試験研究成果④
19	テスト
20	解答の解説

評価方法・基準	試験、レポート等により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	山梨県施肥基準 (抜粋)、土づくりと作物生産 (日本土壤協会)、プリント資料
----------	--

科目名	環境保全型農業 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 1年	担当者	清水 靖 [元農業大学校長、元専門技術員(花き)]		
ねらい	農業と環境との関わりについての基礎を学ぶ。				
到達目標	農業と大気環境、水質環境、土壌環境との関わり合いについて理解し、環境負荷低減技術を習得する。				

回数	授業計画
1	環境保全の定義について 環境問題の背景と課題 環境保全の取組について
2	地球温暖化の影響 ・温室効果と温室効果ガスの発生について ・農業生産活動における環境問題 ・農業分野における気候変動への対応策
3	環境と調和のとれた農業生産活動規範について 持続可能な開発目標と日本の取り組み
4	環境保全型農業の施策の変遷 現状と課題 有機農業とは 環境保全型農業直接支払制度について
5	環境保全型農業の推進について 有機農産物、特別栽培農産物、甲斐のこだわり環境農産物について
6	山梨県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画 4パーミル・イニシアチブの取組 土づくりの重要性について
7	山梨県農政部で環境保全型農業に係る事業 ・有機農業の日本農林規格について ・減農薬(減化学肥料)特別栽培農産物について ・持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律(エコファーマー)について
8	総合的病虫害、雑草管理(IPM)について 化学合成農薬使用回数の低減技術について
9	環境負荷低減技術の具体的な取組 農業生産工程管理(gap)について 農業用廃プラスチックの処理について
10	山梨県における環境保全型農業施策・事業について レポート作成

評価方法・基準	出席、理解度試験、レポート等により評価する。
---------	------------------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	農業施策 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 1年	担当者	若林 喜久男 [元農業系高校校長]		
ねらい	農業の現状と課題、農政の基本方向について学ぶ。				
到達目標	山梨の農業の現状と課題及び農業・農政の基本方向と国・県の施策などに理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・食料・農業・農村白書より ・日本農業の現状
2	<ul style="list-style-type: none"> ・強い農業の創造 ・地域資源を活かした農村の振興・活性化
3	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな食料・農業・農村計画より ・基本計画における施策の方向
4	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧自給率目標 ・農業の持続的な発展
5	<ul style="list-style-type: none"> ・やまなし農業基本計画より ・本県の現状と課題
6	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向 ・担い手の育成。生産振興策等
7	<ul style="list-style-type: none"> ・峡東農務事務所の取り組み（見学） ・担い手育成支援、農地集積の取り組み
8	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み事例の見学
9	<ul style="list-style-type: none"> ・農業施策への提案 ・レポート作成
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による発表及び協議

評価方法・基準	試験、レポート等により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	農業法規 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 1年	担当者	清水 章男 [元農業系高校校長]		
ねらい	農業に関する主要な法規や制度の基本を理解し、適正な農業経営を行うための基礎知識を身につける。				
到達目標	農業経営の場面において法令等を適切に判断・遵守しながら、持続可能な農業を実践できる能力と態度を養う。				

回数	授業計画
1	農業法規を学ぶ意義 農業経営基盤強化促進法① ・ 農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律 ・ 基盤法の概要 ・ 演習
2	農業経営基盤強化促進法② ・ 基本要綱（国） ・ 基本方針（県） ・ 基本構想（市町村） ・ 演習
3	農地中間管理事業 ・ 農地中間管理機構 ・ 農地貸借の手続き ・ 演習
4	農地法に基づく遊休農地対策 ・ 演習
5	農業振興地域の整備に関する法律 ・ 農業振興地域の指定 ・ 農用地区域の設定および変更 ・ 演習
6	農業協同組合法 ・ 農協法の基礎知識 ・ 事業の範囲 ・ 機関 ・ 演習
7	農業融資 農業保険 演習
8	経営安定対策 日本型直接支払制度 演習
9	農業の社会保険 農業の労働保険 農業者年金制度
10	試験 試験の解答、解説

評価方法・基準	章末テスト、小テスト（随時）、レポート提出
---------	-----------------------

テキスト・参考書	三訂版 農地・農業の法律相談ハンドブック
----------	----------------------

科目名	先端技術実習 実習	単位数	13	時間	390
対象学生	専攻科 1年	担当者	果樹試験場 研究員		
ねらい	農業生産の現場で活用される先進的な栽培技術について学ぶ。				
到達目標	果樹試験場での実習を通し、試験場の各部・科で開発・実証された先進的な栽培技術を習得するとともに、プロジェクト課題を設定し、調査、取りまとめを行う。				

分野	授業内容
オリエンテーション	<p>果樹試験場における実習の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験場各科の試験課題について ・ 学習内容の明確化と実習先研究室の選定 ・ プロジェクト学習の進め方 ・ 報告書のまとめ方
実習	<p>果樹試験場における実習の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属する研究室の試験研究課題の理解 ・ 果樹の生育ステージに応じた栽培技術 ・ 試験研究に必要な専門的な知識と技能 ・ 課題解決のための研究手法 ・ プロジェクト課題の設定と進行 ・ 調査のタイミングと計画の進行管理方法 ・ 調査データの管理と処理方法
取りまとめ	<p>研修報告の作成の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト課題の取りまとめ、発表 ・ 派遣先研究室の概要 ・ 学習内容 ・ 試験研究の現場や実習を通しての感想

評価方法・基準	研修報告を基準に評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	農産物流通販売 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	清水 靖 [元農業大学校長、元専門技術員(花き)]		
ねらい	市場流通を中心とした流通の現状と今後の動向について、基礎的事項や最近の流通事項、変化を学習する。				
到達目標	TPP導入など世界市場がグローバル化する中、多様化する農産物の流通販売の実態や今後の流通のあり方・課題等を検討・研究検証する。				

回数	授業計画
1	①現代の食生活変化と農産物流通機構の変化 ②青果物流通システムの現状と課題
2	①青果物流通システム(市場流通と市場外流通と商品特性等) ②農産物の各種流通システムと形態と内容
3	①卸売市場の仕組みと機構、卸売市場の種類と規制する法律、中央卸売市場と地方卸売市場 ②卸売市場の流通経路と物流・卸売市場の機能<集荷、分荷、価格形成等>・卸売業者の定義と業務、扱い規模等
4	①卸売市場及び市場外流通の年次別取扱量推移 ②卸売市場の流通諸機能<商的流通機能・物流的機能・情報流通機能等>
5	①卸売市場を中心とした農産物基本ルートと最近の物流ルートの多様化 ②農産物流通の多様化と卸売市場流通の衰退原因 ③卸売市場における青果物の価格形成
6	①食品流通に求められるもの ②食品産業とSDGsのつながり
7	①価格形成の種類 ②卸売市場における取り引き等処理システム ③卸売市場における青果情報システム構築経過
8	①世界の食料事情について ②食品ロス、リサイクルをめぐる情勢
9	①日本農業の現状と農産物流通 ②農産物流通の現状と地産地消の動向 ③市場外流通の興隆と食品の安全性問題
10	①グローバル化する食品流通をめぐる諸問題
11	①農産物流通から見た「地産地消」の位置づけ②食料自給率について 日本の食生活 食料需給と自給率
12	①地産地消の具体的事例 ②農産物直売所 ③産地直送
13	①6次産業化について②食品流通のしくみと働き
14	①地産地消と「安全・安心」 ②生産者－消費者の信頼性意識構築コミュニケーションツールとしてのトレーサビリティシステム ③トレーサビリティシステムの必要性
15	全農やまなし 直売施設の取組事例視察研修
16	視察研修内容のレポート作成
17	①米の流通について ②米トレーサビリティ法について ③食糧管理法と食糧法
18	①青果物の流通について ・果樹をめぐる情勢 ・野菜をめぐる情勢
19	①食品の品質と規格について ポジティブリスト制度 GAP制度 ②地域団体制度 地理的表示保護制度 ③コールドチェーン POSシステム
20	試験

評価方法・基準	レポート課題により評価
---------	-------------

テキスト・参考書	食品流通 (実教出版株式会社)
----------	-----------------

科目名	マーケティング 演習	単位数	2	時間	60
対象学生	専攻科 1年	担当者	澤 伸恭 [大学特任教授、中小企業診断士] 玉川 真奈美 [(株)インフィニバリュー代表取締役、山梨大学非常勤講師、料理研究家] 伊東 洋晃 [山梨学院大学教授] 佐野 祐子		
ねらい	農業経営に必要なマーケティングの基礎を学ぶ。				
到達目標	消費動向の把握とそれに基づく販売戦略のための分析の手法を理解する。				

回数	授業計画
1	Miraiプロジェクトの紹介、参加希望確認
2	Miraiプロジェクトの相談（企業とのマッチング）
3	法人の見学①
4	法人の見学②
5	法人の見学③
6	法人の見学④
7	法人の見学⑤
8	法人の見学⑥
9	法人の見学⑦
10	Mirai フォーラム発表会
11	商品開発のねらい、商品の基本設計、マーケティング・広報宣伝手法の基本
12	新商品のテーマ・コンセプトの検討
13	新商品の基本設計
14	新商品の試作
15	次年度の商品開発に向けた課題の整理、テーマ・コンセプトの修正検討
16	マーケティング論
17	広告論・消費者行動論
18	地域ブランド
19	次年度のに向けた果樹ビジネスモデルの課題整理
20	次年度に向けた果樹ビジネスモデルの設計

評価方法・基準	レポート等により評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	手にとるように小売流通がわかる本(かんき出版)
----------	-------------------------

科目名	法人経営論 講義	単位数	2	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	古屋 浩昭 [元県中小企業団体中央会職員、元やまなし農山村発イノベーションサポートセンタープランナー]		
ねらい	現地で法人からの聞き取り等により、起業した考え方、強み弱み等を検討する。				
到達目標	法人経営のノウハウを検討し自分の考えを発表することができる。				

回数	授業計画
1	農業経営と法人化の基礎理解 ・ 農業経営の基本構造 ・ 法人の種類と法制度 ・ 法人化のメリット、デメリット
2	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
3	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
4	農業法人の経営戦略と管理 ・ 農業法人の経営戦略 ・ 生産・財務管理
5	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
6	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
7	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
8	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
9	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等） による課題検討
10	農業法人の発展・課題と将来像 ・ 現地見学した法人の事例分析

評価方法・基準	出席、レポートで評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	アグリビジネス論 I 講義	単位数	3	時間	45
対象学生	専攻科 1年	担当者	玉川真奈美 [(株)インフィニバリュー代表取締役、山梨大学非常勤講師、料理研究家] 古屋 浩昭 [元県中小企業団体中央会職員、元やまなし農山村発イノベーション・トータルプランナー]		
ねらい	アグリビジネスの実際について、現場での実践事例などを基に成功への要因を演習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議等の経験から自分の考えを整理し発表できる。 ・消費動向の把握とそれに基づく販売戦略のための分析の手法を理解する。 				

回数	授業計画
1	本年度の商品開発の目標設定
2	小淵沢トレイルランに向けた商品づくり
3	小淵沢トレイルランに向けた商品づくり
4	小淵沢トレイルランでのテスト販売、アンケート調査結果まとめ
5	収穫祭に向けた商品開発検討
6	収穫祭に向け商品のアンケート調査内容の検討
7	新商品の試作
8	収穫祭の結果まとめと課題の抽出
9	次年度のに向けた果樹ビジネスモデルの課題整理
10	次年度に向けた果樹ビジネスモデルの設計
11	アグリビジネスとは何か <ul style="list-style-type: none"> ・アグリビジネスの基本 ・日本農業の現状 ・ミニワーク
12	農業経営とお金の話 <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営の基本 ・農業特有のリスク ・経営形態 ・ケーススタディ
13	農産物の流通と販売戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物流通の仕組み ・販売チャネルの比較 ・マーケティングの基礎 ・ワーク
14	6次産業化と付加価値づくり <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化とは ・付加価値の作り方 ・成功・失敗事例 ・グループワーク
15	これからのアグリビジネスと進路 <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業 ・環境・持続可能性 ・農業×仕事 ・グループワーク

評価方法・基準	出席、レポート等で評価する。
---------	----------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	農業法人派遣研修 実習	単位数	9	時間	270
対象学生	専攻科 1年	担当者	農業法人		
ねらい	農業生産法人の運営に必要な知識を学ぶ。				
到達目標	農業生産法人において実習し、生産技術、流通、販売等の実際や経営管理手法などの概要を理解する。				

分野	授業内容
オリエンテーション	派遣研修の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣先の事前調査の方法 ・ 派遣研修で学びたい内容の明確化 ・ 報告書のまとめ方
現地研修	農業法人の経営現場の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営のコンセプト、法人化への契機、経営形態、経営内容の実際 ・ 栽培で実践している先端的な技術、生産方法 ・ 販売戦略、販売方法 ・ 生産計画、生産管理、労務管理等の経営管理の実際
結果取りまとめ	研修報告の作成の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣先法人の概要 ・ 派遣先の経営内容 ・ 実習で学んだ内容 ・ 派遣先の法人経営について感じたこと

評価方法・基準	研修報告を基準に評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	起業理念 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 1年	担当者	入倉 利也 [情報システム支援会社社長]		
ねらい	起業する際に必要な基礎知識を学ぶ。				
到達目標	起業理念の考え方、事業計画の作成法など、経営者に必要な基礎知識を理解する。				

回数	授業計画
1	企業についての環境分析、SWOT分析
2	理念の考え方、ビジョンの設定
3	理念作成の為、自分自身をSWOT分析
4	ビジョン（将来目標）作成の基本戦略を考える
5	起業理念の作成について 理念の作り方①
6	起業理念の作成について 理念の作り方②
7	理念→事業コンセプト→ビジョン 事業計画の作成について①
8	理念→事業コンセプト→ビジョン 事業計画の作成について②
9	理念を元に事業計画の作成①
10	理念を元に事業計画の作成②
11	理念を元に事業計画の作成③
12	理念を元に事業計画の作成④
13	理念を元に販売戦略 事業計画書作成①
14	理念を元に販売戦略 事業計画書作成②
15	理念を元に販売戦略、事業計画書の作成①
16	理念を元に販売戦略、事業計画書の作成②
17	理念、販売戦略、事業計画書の発表準備①
18	理念、販売戦略、事業計画書の発表準備②
19	理念、販売戦略、事業計画書の発表①
20	理念、販売戦略、事業計画書の発表②

評価方法・基準	事業計画書、発表会の内容等により評価する。
---------	-----------------------

テキスト・参考書	マンガでわかる事業計画書の作り方(西東社)
----------	-----------------------

科目名	社会学 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 2年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病害虫)]		
ねらい	就職試験等に必要な一般常識について習得する。				
到達目標	政治・経済の基礎知識や時事問題等について理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業目標・計画、社会学を学ぶ意義 一般常識① ・ 日本国憲法の基本的性格と日本の政治機構（日本国憲法、国会、内閣と行政） ・ 演習
2	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識② ・ 日本の政治機構（裁判所、地方自治、選挙） ・ 演習
3	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識③ ・ 現代の国際政治と経済（国際連合、家計、企業、市場経済） ・ 演習
4	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識④ ・ 現代の経済と日本経済（国民所得と経済成長、金融、財政、環境問題） ・ 演習
5	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識⑤ ・ 日本経済と国際経済（労働、社会保障制度、国際経済、国際情勢） ・ 演習
6	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題① ・ 政治関係 ・ 演習
7	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題② ・ 経済関係 ・ 演習
8	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題③ ・ 暮らし・社会・環境関係 ・ 演習
9	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題④ ・ 国際関係 ・ 演習
10	<ul style="list-style-type: none"> 試験 試験の解答、解説

評価方法・基準	試験、演習、授業態度等で評価する。
---------	-------------------

テキスト・参考書	大人の教養 面白いほどわかる政治・経済（KADOKAWA出版） 2026年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（毎日新聞出版）
----------	--

科目名	果樹栽培各論Ⅰ 講義	単位数	3	時間	45
対象学生	専攻科 2年	担当者	手塚 誉裕 [元果樹試験場環境部部長]		
ねらい	ブドウの高品質果実生産に必要な専門知識と技術を習得する。				
到達目標	高品質なブドウを安定生産するための品種ごとの専門知識と技術を習得するとともに、省力低コスト栽培など先進技術を理解する。				

回数	授業計画
1	生育の特性と主要作業（年間の生育と作業ポイント）
2	仕立て方法と栽培管理の実際
3	休眠期の管理 剪定
4	結果母枝誘引
5	粗皮剥ぎ
6	発芽期の管理 芽掻き
7	開花結実期の管理 新梢誘因
8	摘房
9	房づくり
10	1回目GA 摘心
11	果粒肥大期の管理 摘粒
12	2回目GA
13	袋かけ 傘掛け
14	新梢誘引
15	摘心
16	収穫期の管理 着色管理
17	裂果防止対策
18	収穫
19	出荷
20	病虫害防除 農薬の適正利用と飛散防止対策
21	施肥と土づくり 灌水と排水対策
22	施設栽培（加温・無加温・雨よけ）
23	品種別の管理ポイント
24	植物生育調節剤の効果と使用方法
25	気象災害と対策
26	生育・生理障害と対策（欠乏症と過剰症）
27	（生理障害）
28	鳥獣害対策
29	総括学習
30	テスト

評価方法・基準	試験・レポート等により評価する。
---------	------------------

テキスト・参考書	葡萄の郷から（山梨県果樹園芸会）
----------	------------------

科目名	果樹栽培各論Ⅱ 講義	単位数	3	時間	45
対象学生	専攻科 2年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病害虫)]		
ねらい	モモの高品質果実生産に必要な専門的な知識を学ぶとともに、省力化・低コスト栽培など近年開発された先進技術を習得する。				
到達目標	高品質安定生産に必要な専門的な知識を理解する。				

回数	授業計画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業目標・計画 ・ 原産地と来歴 ・ 栽培の現状と今後の方向
2	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育種方法と特性調査 ・ 品種の特性 ・ 台木の特性・各品種の栽培特性
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育の特性、年間の生長、各部の形態と生理
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開園と新植、改植、改植・新植支援事業
8	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休眠期から開花結実期の管理（摘蕾・摘花、人工受粉、灌水、病害虫防除、凍霜害対策）
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果実肥大期の管理（園の状態と過繁茂の原因、摘果、袋かけ、灌水、病害虫防除）
12	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着色、成熟期の管理（果実品質を左右する条件、除袋、着色管理、収穫適期の判断と
14	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫後の管理（縮伐・間伐、礼肥、秋季剪定、灌水、病害虫防除）
16	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整枝剪定（整枝剪定と生育、開心自然形、開心自然形の改良型、斜立主幹形）
18	
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整枝剪定（棚栽培、Y字形仕立て）
20	
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっている病害 ・ 病害各論（被害、基本情報、生態、誘因・素因、防除対策）
22	
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年問題になっている害虫 ・ 害虫各論（被害、基本情報、生態、発生しやすい条件、防除対策）
24	
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生理障害 ・ 土づくりと施肥
26	
27	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハウス栽培 ・ 栽培の優良事例
28	
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験 ・ 試験の解答、解説
30	

評価方法・基準	試験、演習、授業態度等で評価する。
---------	-------------------

テキスト・参考書	プリント資料、改訂版モモの郷から（山梨県果樹園芸会）
----------	----------------------------

科目名	果樹栽培各論Ⅲ 講義	単位数	3	時間	45
対象学生	専攻科 2年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病害虫)]		
ねらい	スモモ、オウトウの高品質安定生産に必要な専門知識を学ぶとともに、省力化・低コスト栽培など近年開発された先進技術を習得する。				
到達目標	高品質安定生産に必要な専門的な知識を理解する。				
回数	授業計画				
1	授業目標・計画 スモモ (第1回～第14回)				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原産地と来歴、栽培の現状と経営、主要品種の栽培特性、台木の特性 ・ 演習 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育特性、形態と生理、開花結実期の管理 (開花期の早晩とその後の生育、結実を左右する条件) 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開花結実期の管理 (人工受粉、凍霜害防止対策、新梢伸長期から果実肥大期の管理、 				
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新梢伸長のタイプと樹勢、生理的落果、摘果、カサかけ) 				
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成熟期の管理 ・ 施肥と土壌管理 				
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整枝剪定 (樹の特徴とタイプ、ソルダムの整枝剪定) ・ 演習 				
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整枝剪定 (大石早生、太陽、貴陽、サマーエンジェル、サマービュート) 				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚栽培、生理障害、主要病害虫の生態と防除 				
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培優良事例 				
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
15	オウトウ (第15回～第28回)				
16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原産地と来歴、栽培の現状と経営、主要品種の特性 ・ 演習 				
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育特性、形態と生理、開花結実期の管理 				
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新梢新長期の管理、着色期から収穫期の管理、着色促進剤の利用 				
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫後の管理、施肥と土壌管理、苗木の植え付け、生理障害 				
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要病害虫の生態と防除 				
24	<ul style="list-style-type: none"> ・ オウトウ樹の特性と慣行整枝法 ・ 演習 				
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改良型主幹形、開心自然形、Y字仕立て、垣根仕立て 				
26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培優良事例 				
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 				
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験 				
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験の解答、解説 				
評価方法・基準	試験、演習、授業態度等で評価する。				
テキスト・参考書	プリント資料、スモモ栽培・利用加工、サクランボ栽培・利用加工 (創森社)				

科目名	醸造用ブドウ栽培論 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 2年	担当者	齋藤 浩 [勝沼醸造(株) 副社長]		
ねらい	醸造用ブドウ栽培の初期から実生産に至るまでの知識を身につける。				
到達目標	最終回の講義時に、醸造用ブドウ畑の開園から栽培計画立案が出来るようにする。				

回数	授業計画
1	醸造用ブドウの歴史とワイン産業との関係。世界の主要産地と品種の特徴。
2	ブドウ樹の構造と、年間の生育サイクル。
3	土壌の物理性、排水性、テロワールという概念とワイン品質への影響。
4	温度、日照時間、降水量等ブドウの成熟との関係。地域別気象条件と適応戦略。気候変動への対応。
5	醸造用主要品種の特性。クローン選抜と台木の役割。品種選定における地域適応性。
6	畑の選定、圃場設計、植え付け、仕立て方の選択と収量・品質。
7	除葉の目的とタイミング、キャノピーマネジメントについての理解。
8	ブドウの収穫時期を特定する考え方。フェノールの成熟、適熟の概念。
9	キャノピーマネジメント・除葉体験。
10	キャノピーマネジメント・除葉体験。
11	ブドウ畑の設立・維持コストと経済的な側面。
12	官能評価。
13	現地研修、有機栽培実施ブドウ畑の視察。
14	現地研修、有機栽培実施ブドウ畑の視察。
15	収穫体験実習 収穫判断の実際。
16	収穫体験実習 収穫時の留意点、衛生管理。
17	ワイナリーにて仕込み体験実習 ワイナリーでの初期処理プロセスの理解。
18	ワイナリーにて仕込み体験実習 ワイナリーでの醸造工程の理解。
19	講義全体の復習、栽培と醸造の連携の重要性、栽培計画の立案（品種選定、土壌管理、収穫予測）。
20	講義全体の復習、栽培と醸造の連携の重要性、栽培計画の立案（品種選定、土壌管理、収穫予測）。

評価方法・基準	レポートにより評価する。
---------	--------------

テキスト・参考書	醸造用ブドウ栽培の手引き、山梨県醸造用ブドウ栽培マニュアル、関係資料配布。
----------	---------------------------------------

科目名	地域先進技術 事例研究	単位数	2	時間	60
対象学生	専攻科 2年	担当者	佐野 祐子、農務事務所職員		
ねらい	山梨県内の各地域における果樹技術の普及・発展について学ぶ。				
到達目標	果樹生産における先進技術の導入事例や事業等を活用した産地の活性化事例を理解する。				

回数	授業計画
1	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について①（現地調査）
2	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について②（現地調査）
3	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について③（現地調査）
4	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について④（現地調査）
5	中北地域における果樹の先進技術導入事例について①（現地調査）
6	中北地域における果樹の先進技術導入事例について②（現地調査）
7	中北地域における果樹の先進技術導入事例について③（現地調査）
8	中北地域における果樹の先進技術導入事例について④（現地調査）
9	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について①（現地調査）
10	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について②（現地調査）
11	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について③（現地調査）
12	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について④（現地調査）
13	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑤（現地調査）
14	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑥（現地調査）
15	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑦（現地調査）
16	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑧（現地調査）
17	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑤（現地調査）
18	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑥（現地調査）
19	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑦（現地調査）
20	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑧（現地調査）
21	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について①（現地調査）
22	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について②（現地調査）
23	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について③（現地調査）
24	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について④（現地調査）
25	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について⑤（現地調査）
26	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について⑥（現地調査）
27	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について⑦（現地調査）
28	富士・東部地域における果樹の先進技術導入事例について⑧（現地調査）
29	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑨（現地調査）
30	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑩（現地調査）
31	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑪（現地調査）
32	中北地域における果樹の先進技術導入事例について⑫（現地調査）
33	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑨（現地調査）
34	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑩（現地調査）
35	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑪（現地調査）
36	峡東地域における果樹の先進技術導入事例について⑫（現地調査）
37	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について⑤（現地調査）
38	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について⑥（現地調査）
39	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について⑦（現地調査）
40	峡南地域における果樹の先進技術導入事例について⑧（現地調査）

評価方法・基準	レポートにより評価する。
---------	--------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	植物増殖 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 2年	担当者	望月 孝一 [技術士(農業部門)、専門技術員資格(果樹、病害虫)]		
ねらい	優良品種・系統への改植・新植や樹体更新のために必要な苗木の育成方法を習得する。				
到達目標	繁殖の原理と樹種に応じた繁殖方法について理解する。				

回数	授業計画
1	授業目標・計画 接ぎ木(原理と特色、活着に及ぼす要因、方法と特徴) 挿し木(発根の生理、発根に及ぼす要因、方法と特徴)、取り木、株分け
2	果樹の繁殖に必要な用具・資材 演習問題
3	ブドウ(講義) 繁殖の特徴、台木品種の特性、緑枝接ぎの方法、その他の繁殖方法、作業実習の準備
4	演習問題
5	ブドウ(作業実習) 台木づくり、緑枝接ぎ、緑枝接ぎに必要な用具・資材
6	作業実習 演習問題
7	モモ、スモモ、オウトウ(講義) 台木の特性、台木づくり、芽接ぎ
8	演習問題
9	モモ(作業実習) 台木づくり、芽接ぎ、芽接ぎに必要な用具・資材
10	作業実習 演習問題
11	カキ(講義、作業実習) 台木の特性、台木づくり、切り接ぎの方法、高接ぎ更新、作業実習、演習問題
12	キウイフルーツ(講義) 繁殖法、作業実習、次回作業実習の準備、演習問題
13	リンゴ(講義、作業実習) 台木の特性、台木づくり、切り接ぎ、作業実習、演習問題
14	日本ナシ、西洋ナシ(講義) 台木の特性、台木づくり、切り接ぎ、演習問題
15	ブルーベリー(講義、作業実習) 休眠枝挿し、接ぎ木挿し、作業実習
16	ユズ(講義) 繁殖方法、台木づくり、切り接ぎ
17	種苗法とは、種苗法改正の背景、改正種苗法の全体像、自家増殖の方針(山梨県・長野県・農研機構)、Q&A、演習問題
18	
19	試験
20	試験の解答、解説

評価方法・基準	試験、演習問題、授業態度等により評価する。
---------	-----------------------

テキスト・参考書	プリント資料、果樹の接ぎ木・さし木・とり木(農文協)
----------	----------------------------

科目名	病虫害防除 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 2年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	自然生態系や環境に対応した安全な防除方法を学ぶとともに、県内で問題となった病虫害に対する地域の取り組み事例を学ぶ。				
到達目標	環境保室やポジティブリスト制度への対応を基本とし、県内で問題となっている病虫害に対する、地域の取り組み事例に学び、JA営農指導員資格試験（防除）対策を行う。				

回数	授業計画
1	最近の病虫害発生状況と防除の実態 防除の考え方と手段(病虫害発生の三要素)、環境条件・樹体・病虫害の制御
2	上手な薬剤の選び方、剤型の特徴 薬剤散布のタイミング
3	農薬を使用する際に必要な環境への配慮 農薬残留
4	農薬散布と糖度・果実品質との関係、薬剤耐性菌・抵抗性病虫害対策 降雨と病虫害防除のポイント、ブドウべと病の発生状況と防除の問題点
5	農薬取締法の詳細、農薬散布時の順守事項
6	防除の効果を上げるには ①展着剤の種類と使用法 ②動噴とSSの効果的活用、噴口の種類と防除効果
7	ポジティブリスト制度の内容とその対応 ポジティブリスト制度に対応する技術対策、飛散防止対策、農薬の選び方、農薬依存からの脱却
8	果樹防除暦の上手な使い方 病虫害発生予察について
9	化学合成農薬以外の防除法 交信攪乱剤、生物農薬・天敵農薬・微生物農薬、果実袋
10	口頭試験
11	JA営農指導員資格試験（防除）対策
12	JA営農指導員資格試験（防除）対策
13	JA営農指導員資格試験（防除）対策
14	JA営農指導員資格試験（防除）対策
15	JA営農指導員資格試験（防除）対策
16	JA営農指導員資格試験（防除）対策
17	JA営農指導員資格試験（防除）対策
18	JA営農指導員資格試験（防除）対策
19	JA営農指導員資格試験（防除）対策
20	筆記試験

評価方法・基準	試験により評価する。
---------	------------

テキスト・参考書	プリント資料
----------	--------

科目名	土壌肥料 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 2年	担当者	渡辺 実 [元研究員(土壌肥料)]		
ねらい	①ブドウ・モモを中心とした果樹園の土づくり対策・肥培管理対策等について習得する。 ②JA営農指導員資格取得に向け、過去(H28～R6)の試験問題の演習。				
到達目標	①果樹の養分吸収特性を加味した、効率的耕土養対策や土壌分析に基づいた、適正な施肥管理対策・水管理対策技術を習得する。 ②最近のJA営農指導員施肥試験問題演習により、同資格の取得を目指す。				

回数	授業計画
1	①本邦果樹園の栽培面積推移と土壌の種類別変化 ②果樹園土壌の成園化過程と土壌理化学性変化
2	平成29年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
3	①土壌の構造と土壌水分特性・果樹園の水管理法 ②土壌構造(孔隙特性)と土壌微生物(微生物の居住空間づくり土壌孔隙特性による土壌微生物の棲み分け)
4	平成30年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
5	①果樹園土壌の種類と土壌生産力変化(有効土層深変化・土壌硬度変化と果樹の根伸長変化) ②土壌の種類(理化学特性)と樹勢適応性
6	令和元年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
7	①果樹園の土づくりと土壌の種類別土壌改良基準 ②土壌の物理性改良基準目標とその意味 ③土壌の化学性改良目標と最近の土壌診断値の現状と問題点
8	令和2年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
9	①土壌診断とバランスのとれた土づくり(土壌診断結果の読み方と効率的土壌改良対策) ②土壌診断結果の深読み方法
10	令和3年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
11	①肥料(化学・有機肥料)の概要と分類(肥料取締法) ②各種肥料の特性と定義 ③土壌改良材と化学肥料について
12	令和4年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
13	①果樹の施肥と養分吸収の基準(作物養分と養分吸収機作、養分吸収量と吸収時期、施肥量と施肥時期等:岡山大学岡本レポートから)
14	令和5年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
15	①樹園地水管理と土壌中の水分特性 ②果樹の水分生理特性と効率的かん水方法 ③かん水の効果とかん水量 ④水分ストレスと果樹の品質等
16	令和6年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
17	①ブドウ・モモ養分吸収特性・養分吸収量と施肥量・施肥時期 ②なぜ果樹栽培では「お礼肥」や「元肥」を収穫後から秋期にかけてするのか?
18	令和7年度営農指導員試験(施肥)問題演習と解説
19	①果樹園の土づくり総括(・耕耘と有機物施用・施肥管理方法・水管理方法等)
20	JA営農指導員試験問題解説総括

評価方法・基準	レポートにより成果評価
---------	-------------

テキスト・参考書	よくわかる土と肥料のハンドブック(土壌改良編、肥料施肥編*農文協) JA営農指導員テキスト:営農指導技術(施肥)(JA全国農業協同組合中央会)
----------	--

科目名	環境保全型農業 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 2年	担当者	清水 靖 [元農業大学校長、元専門技術員(花き)]		
ねらい	環境にやさしい環境保全型農業の導入に必要な知識を学ぶ。				
到達目標	持続的農業や代替農業、有機農業の考え方を理解する。				

回数	授業計画
1	日本における環境保全型農業のとらえ方 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業の現状と課題 ・農林水産分野における地球温暖化に対する取組 ・環境保全の定義
2	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減に向けた取組 ・農業生産活動による環境負荷について
3	地球温暖化対策における農林分野の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出削減対策 ・温室効果ガスの吸収源対策
4	環境と調和のとれた農業生産活動規範について SDGsと農業分野で取り組むべき事例
5	新政策における環境保全型農業の位置づけ 環境保全型農業の施策・制度の変遷
6	有機農業について <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物、特別栽培農産物、甲斐のこだわり環境農産物とは 環境保全型農業直接支払い制度について
7	総合的病害虫、雑草管理(IPM)実践指針について <ul style="list-style-type: none"> ・IPMの目的と基本的な実践方法
8	化学合成農薬使用回数低減技術 生物的防除方法等について
9	山梨県における環境保全型農業施策 環境問題とは何か 土づくりの重要性について
10	GAPIに向けた生産者の取組 農業用廃プラスチック類の処理について レポート作成

評価方法・基準	出席・理解度テスト、レポートの作成・提出で評価する
---------	---------------------------

テキスト・参考書	プリント
----------	------

科目名	農業法規 講義	単位数	1	時間	15
対象学生	専攻科 2年	担当者	古屋 栄 [元果樹試験場長 (果樹・土壌・栄養生理)]		
ねらい	農地法と生活に関わる税金についての知識を習得する。				
到達目標	現代農業の高度化と多様化に対応するため、農地法と生活に関わる税金について理解する。				

回数	授業計画
1	農地法について① ・売買関係
2	農地法について② ・転用関係
3	農地法について③ ・転用関係
4	農地法について④ ・貸借関係
5	農地法について⑤ ・貸借関係
6	農地法について⑥ ・相続・贈与関係
7	生活に関わる税金 (所得税、社会保険税、住民税) ① ・登記関係
8	生活に関わる税金 (所得税、社会保険税、住民税) ② ・登記関係
9	レポート作成
10	レポート発表と相互討議

評価方法・基準	試験により評価する。
---------	------------

テキスト・参考書	農業委員会研修テキスト② 農地法 (全国農業会議所)、プリント資料
----------	-----------------------------------

科目名	先端技術実習 実習	単位数	11	時間	330
対象学生	専攻科 2年	担当者	果樹試験場研究員		
ねらい	農業生産の現場で活用される先進的な栽培技術や技術開発への取り組みについて学ぶ。				
到達目標	果樹試験場での実習を通し、試験場の各部・科で開発・実証された先進的な栽培技術を習得するとともに、プロジェクト課題を設定し、調査、取りまとめを行う。				

分野	授業内容
オリエンテーション	<p>果樹試験場における2年目の実習の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究室の今年度の試験研究内容の確認 ・所属している研究室に係わる課題の抽出 ・抽出した課題に沿って学習する内容を確認 ・1年次に実施したプロジェクト研究のフォロー学習の進め方
実習	<p>果樹試験場における実習の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育ステージに応じた栽培技術 ・試験研究に係る専門知識と課題解決手法 ・課題の設定、試験設計の立て方 ・調査の仕方とタイミング ・試験計画の進行管理 ・調査データの管理と処理方法
取りまとめ	<p>研修報告の作成の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の実習内容の整理 ・成果レポートの作成 ・成果発表会(12/2)における発表 ・卒業論文集に収録する卒論整理

評価方法・基準	研修報告を基準に評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	販売促進 演習	単位数	2	時間	60
対象学生	専攻科 2年	担当者	澤 伸恭 [大学特任教授、中小企業診断士]		
ねらい	高収益農業の実現に向けた、流通の基礎知識と販売戦略の作成方法について学ぶ。				
到達目標	商品開発や販売促進のための取り組みについて、授業と流通現場の視察をとおして理解する。				

回数	授業計画
1	農産物販売の基本（農大 講義）
2	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
3	小売・流通の仕組みについて（農大 講義）
4	農産物販売手法について（農大 講義）
5	マーケティングの基本（農大 講義）
6	マーケティング手法について（農大 講義）
7	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
8	クラウドファンディングとは（農大 講義）
9	クラウドファンディングの取組事例等（農大 講義）
10	クラウドファンディングを行うための事業計画作成（農大 講義）
11	クラウドファンディングを行うための事業計画作成（農大 講義）
12	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
13	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
14	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
15	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
16	法人見学後の課題の洗い出しと解決策の検討
17	クラウドファンディングのページづくりのポイント（農大 講義）
18	クラウドファンディングのページづくりの実際（農大 講義）
19	クラウドファンディングのページづくりの実際（農大 講義）
20	クラウドファンディングのページづくり・審査（農大 講義）

評価方法・基準	レポート等により評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	手に取るように小売・流通がわかる本（株式会社かんき出版） マーケティング見るだけノート（宝島社）
----------	---

科目名	農業経営分析 演習	単位数	1	時間	30
対象学生	専攻科 2年	担当者	清水 章男 [元農業系高校校長]		
ねらい	経営分析の手法を用いて財務諸表を正しく読み取り、経営実態を数値により客観的に把握する。				
到達目標	経営分析の数値に基づき、経営実態の正確な把握と経営改善に向けた考察力を身につける。				

回数	授業計画
1	利益戦略とキャッシュフロー戦略の統合 ・キャッシュフローの3つの種類（本業、設備投資、資金調達） ・収益と利益、費用
2	・企業における資金の流れ ・フローとストックの両面から経営実態を分析 ・フロー（P/L）とストック（B/S）の関係
3	B/Sから運用・調達状況を見る ・運用サイド（資産）、調達サイド（負債、純資産）
4	・純資産の性質 ・債務超過の原因
5	経営の安定性を保持している企業とは ・農業経営における自己資本比率の目安 ・短期的な返済能力がある（資金繰りがよい）企業とは ・流動比率から資金繰りの状態をみる
6	・財務的に望ましい設備投資をしている企業とは ・固定比率と固定長期適合率から設備投資の状態をみる ・経営成績の把握の仕方
7	所得税青色申告書（農業所得用）の見方 ・青色申告書の損益計算から儲けを比較する ・青色申告書上で利益（所得）を確認する
8	・利益額と利益率の確認 ・EXCELで青色申告書（農業所得用）を作成1（演習①） ・農業経営分析1（演習②）
9	農業経営視察（フィールドワーク）北杜市内圃場視察 視察レポート作成
10	・EXCELで青色申告決算書（農業所得用）を作成2（演習①） ・経営指標に基づく経営計画の作成（演習②） ・農業経営分析2（演習③）
11	経営分析の基本 ・経営分析における思考作業 ・比較対象データの特定
12	・経営内容の細分化 ・経営分析の段階 ・各種経営分析の留意点
13	農業経営におけるスケールメリットの最大化戦略 ・農業におけるスケールメリットの定義 ・固定費・変動費・労働費の削減メカニズム
14	・スマート農業と大区画化の相乗効果 ・規模拡大に伴うリスク管理と対策
15	経営指標による演習 ・規模の経済（スケールメリット）を意識した経営分析（演習①）
16	・収益規模別の所得率「レポートを作成」（演習②）
17	経営の全体像 ・コスト構造の最適化 ・戦略的販路の構
18	・設備投資のROI（投資利益率）最大化 ・組織・データ管理
19	農業経営分析レポート 規模の経済を実装する次世代農業経営戦略 ～コスト構造の変革と強い販路構築による持続可能なモデル～
20	・講義のまとめ ・経営分析の視点と具体的作業等（発表後指導助言） ・レポートの修正・提出

評価方法・基準	章末テスト、小テスト（随時）、レポート提出
---------	-----------------------

テキスト・参考書	決算書はここだけ読もう（年次版）（株式会社弘文堂） 世界一楽しい決算書の読み方（KADOKAWA） キャッシュフローと損益分岐点の見方・活かし方（アニモ出版）
----------	---

科目名	アグリビジネス論Ⅱ 演習	単位数	2	時間	60
対象学生	専攻科 2年	担当者	齋藤 浩 [勝沼醸造(株) 副社長] 古屋 浩昭 [元県中小企業団体中央会職員、 元やまなし農山村発イノベーション サートセンタープランナー]		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインビジネスの実際について、ワイン醸造の基礎から現場での実践事例などを基に、就農、就職そして起業にも役立つ体験や知識を身に付ける。 ・アグリビジネスの実際について、現場での実践事例などを基に成功への要因を演習する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインビジネスの実際が俯瞰出来、就農、就職、起業に対し、十分な準備ができている。 ・グループ討議等の経験から自分の考えを整理し発表できる。 				

回数	授業計画
1	ワインの起源と古代文明～近代 近代から現代
2	ワイン産業の理解と基礎 流通と消費動向
3	マーケティングとブランド戦略 ワイン醸造、収穫～仕込み
4	アルコール発酵の理論と実践 マロラクティック発酵、醸造添加物と調整
5	小規模ワイナリー訪問、経営内容、起業の経緯、宿泊を伴った施設見学 小規模ワイナリー訪問、特区を利用した小規模醸造の可能性
6	小売り酒販店見学（小売店からの視点、商品に対する価値感、消費者の求めるものなど） 日本のワインづくりの歴史と醸造施設見学
7	ワイナリー訪問、仕込み体験と醸造体験
8	樽の製造、樽によるワインの育成 ワインの清澄化と安定化、瓶詰めとクロージャー
9	スパークリングワインの製造と、酒精強化ワイン、甘ロワイン 酒税法
10	企業による醸造用ブドウ栽培への参入現場見学 架空ワイナリーの設立と販売戦略立案、発表
11	アグリビジネスの基本 成功・失敗事例 グループワーク
12	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
13	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
14	アグリビジネスの事例検討 ・現地見学した法人の事例分析
15	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
16	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
17	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
18	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
19	法人の現地見学①（経営内容、起業の経緯等）
20	アグリビジネスの事例検討 ・現地見学した法人の事例分析
評価方法・ 基準	出席、レポート等により評価する。
テキスト・ 参考書	山梨県ワイン製造マニュアル、関係資料配布

科目名	異業種派遣研修 演習	単位数	6	時間	180
対象学生	専攻科 2年	担当者	流通業者、農業法人等		
ねらい	アグリビジネスの展開に必要な生産計画・販売戦略など、経営管理手法の基礎知識や顧客対応などを学ぶ。				
到達目標	アグリビジネスを実践するには、農業生産以外の幅広い知識と広い視野が不可欠なため、他産業における生産・販売管理などについて、実習を通して理解する。				

分野	授業内容
オリエンテーション	派遣研修の実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣先の事前調査の方法 ・ 派遣研修で学びたい内容の明確化 ・ 報告書のまとめ方
現地研修	実習先の経営現場の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修先の経営理念、経営形態・経営内容、特徴等 ・ 販売方法、販売戦略等の実際 ・ 労務管理・物品管理等、経営的な管理の方法 ・ ビジネスプランの作成に参考となる資料の収集
取りまとめ	研修報告作成の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣先の概要 ・ 派遣先の経営内容、特徴的な取り組み内容 ・ 実習で学んだ内容 ・ 派遣先の法人経営について感じたこと

評価方法・基準	研修報告を基準に評価する。
---------	---------------

テキスト・参考書	
----------	--

科目名	ビジネスプラン 演習	単位数	6	時間	180
対象学生	専攻科 2年	担当者	横内 正史 [元農業大学校長・元専門技術員 (普及方法)] 玉川 眞奈美 [栄養士・フードコーディネーター] 佐野 祐子		
ねらい	生産法人をモデルとし、生産から流通、販売までを一体的にとらえたアグリビジネスプランの作成方法を学ぶ。				
到達目標	農業生産法人等をモデルとして、その法人における生産上、または経営上問題となっている課題を抽出し、これらを改善するための計画の作成方法を理解する。				

分野	授業内容
課題抽出と 計画作成	<p>ビジネスプランのテーマ設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産法人派遣研修と異業種派遣研修からの課題の発掘 ・ 課題解決のために必要な調査、結果の分析方法 ・ テーマと実施計画の策定)
調査研究の 実施	<p>対象法人等への調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向けての資料収集 ・ モデルとする法人を対象とした調査 ・ 収集した資料、調査結果のまとめと検討 ・ 調査内容に関するグループ討議
まとめ、論 文作成	<p>ビジネスプラン作成の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査データの集計 ・ 結果と考察のまとめ方の実際 ・ プレゼンテーションソフトを使った発表用資料の作成と発表 ・ 卒業論文の作成

評価方法・ 基準	卒業論文で評価する。
-------------	------------

テキスト・ 参考書	マンガでわかる事業計画書の作り方（西東社）
--------------	-----------------------